

ベロニカバレンタイン

日之谷

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

喘息と逆流性食道炎でしばらくダウンしていました：今回はリハビリを兼ねての一口ガデテル。

主役はガデテル内でヤベー奴Tier 1の勇者教教主、ペロニカさんじゆうななさいです。

目次

ベロニカバレンタイン

「勇者様、ここにいましたか!」

女騎士が浮遊城の噴水近くで寛いでいると、ベロニカから声をかけられた。

何かあったの?と尋ねる女騎士。

「ええ、実は勇者様にお渡ししたい物がございまして…ところで勇者様はバレンタインをご存知ですか?」

バレンタイン…詳しい事は知らないが、親しい者同士で贈り物をする日とは認識している。

ベロニカは手に持ったバスケットの中から箱を取り出し、女騎士に渡す。

箱を開けると、小さなチョコレートが9個入っていた。

「こちらは勇者教で信者の方に販売しているチョコレートでございます。今日は親しい方に贈り物をする日、ぜひご納め下さい」

ありがとうございますとお礼を言う女騎士。

「勇者様から感謝のお言葉を頂けるなんて光栄です!早速ですがお1つどうですか?」

ちょうど小腹が空いていたので、食べようと箱からからチョコを1つ取り出そうとする。

「いただきー!」

突然背後からデザートエルフの男が現れ、女騎士を突き飛ばし箱を奪いとる。

「勇者様!…無事ですか?」

起き上がる女騎士、怪我は無いが持っていたチョコレートは先ほどのデザートエルフに取られてしまったようだ、周囲を見渡すが犯人の姿も無い。

せっかくベロニカから貰ったのに申し訳ない気持ちになっ

う。

「勇者様…いえ、勇者様は悪くありません、きつとあのデザートエルフもお腹が減っていたのでしよう、私はそれも責めたりはしません」

ベロニカは女騎士にまた機会があれば贈ると伝え、その場で解散したのであった。

「しめしめ…いかにも高そうなチョコレートじゃないか、これは俺が食べちゃうもんね」

浮遊城の外れで1人のデザートエルフが女騎士から奪ったチョコレートを手に取り、口に入れる。

「…これは…美味しい!」

チョコの中にはジャムが入っており、それがアクセントとなる。

「ふむふむ、味はマスカットにメロンに抹茶か」

あまりの美味しさに9つあったチョコレートはあっという間に全部食べてしまった。

「久々にこんなに美味しいモンなんて食べた…ぜ…あれ?」

急に意識がぼやけ始めたかと思うとそのまま昏睡していしまう。

「全く…勇者様の為に用意した特製の^{グリーン}ジャム入りのチョコを盗むだなんてとんだ不心得者ですね」

邪悪な笑顔を浮かべているベロニカは倒れたままのデザートエルフに近づく。

「でもこれで勇者教にまた1人、信者が増えたので良しとしましょうか」

ベロニカが手を鳴らすと何処からともなく勇者教の信者が現れ、デザートエルフの男を担ぐとそのまま何処かへと去っていった…

く勇者教特製チョコく

勇者教内で信徒向けに販売しているチョコレート。

売上は全て勇者教の活動資金に使われる。

中心にはジャムが入っており、味はマスカット、メロン、抹茶の3種類。

あまりの美味しさに他の食べ物がいらなくなり、異端者達も心を入れ替え、勇者教を信仰し始めるほどだとか。

なお、1度に大量に食べると「何故か」昏睡してしまうので注意。

ジャムは何で緑色なのか、成分はどうだとか調べようとすると天罰が下るとも言われている。